

2024年度第2四半期

不二サッシグループ 決算説明資料

2024年11月6日

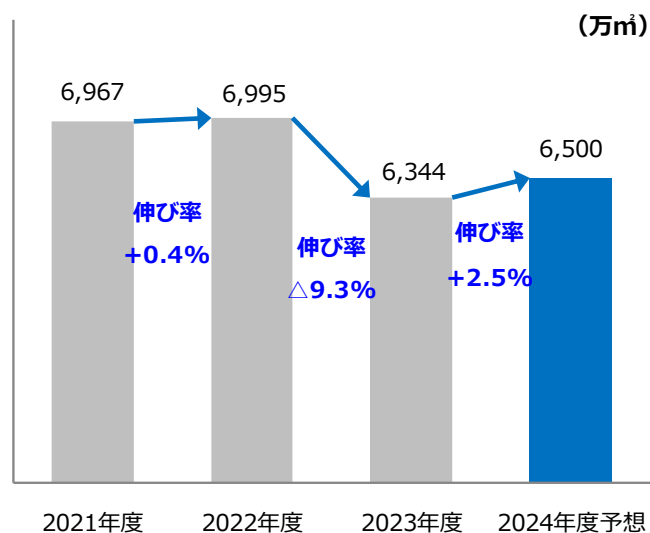
不二サッシ株式会社

I . 2024年度 第2四半期決算の概要

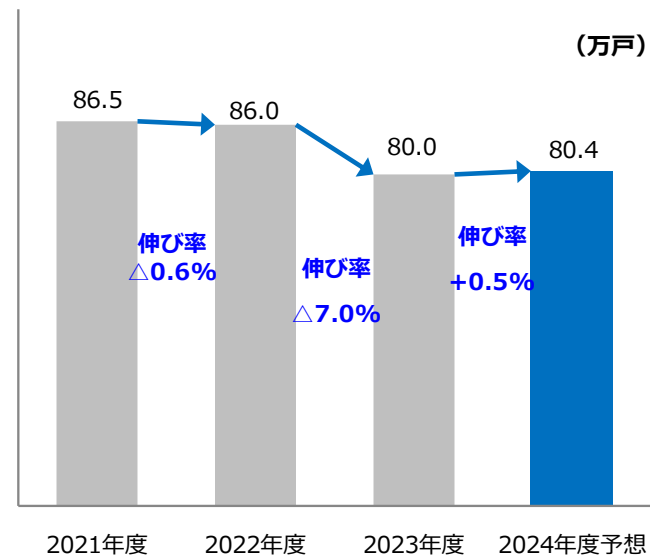
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度 予想
非木造建築物着工床面積(万㎡)	6,967	6,995	6,344	6,500
前年比 (伸び率)	+8.0%	+0.4%	-9.3%	+2.5%
新設住宅着工戸数(万戸)	86.5	86.0	80.0	80.4
前年比 (伸び率)	+6.5%	-0.6%	-7.0%	+0.5%

※実績は国土交通省 建築着工統計調査より

非木造建築物着工床面積 (4-3月)



新設住宅着工戸数 (4-3月)



2024年度 第2四半期決算の業績について

【連結】

(百万円)

	2023年度上期		2024年度上期			
	実績		実績		前年同期比	
		売上比		売上比	増減額	%
売上高	46,164		47,648		+1,483	103.2
売上原価	40,311	87.3	40,997	86.0	+686	101.7
売上総利益	5,853	12.7	6,650	14.0	+797	113.6
販管費	6,625	14.4	6,738	14.1	+112	101.7
営業利益	-772	-1.7	-87	-0.2	+684	-
経常利益	-623	-1.4	55	0.1	+678	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	-758	-1.6	-110	-0.2	+647	-

当社は年度末（3月）に売上・利益とも集中する体質。厳しい外部環境の中、各種取組みにより中間期の赤字幅は大幅に改善し、経常利益は8期ぶりに黒字化するなど、増収増益を達成した。

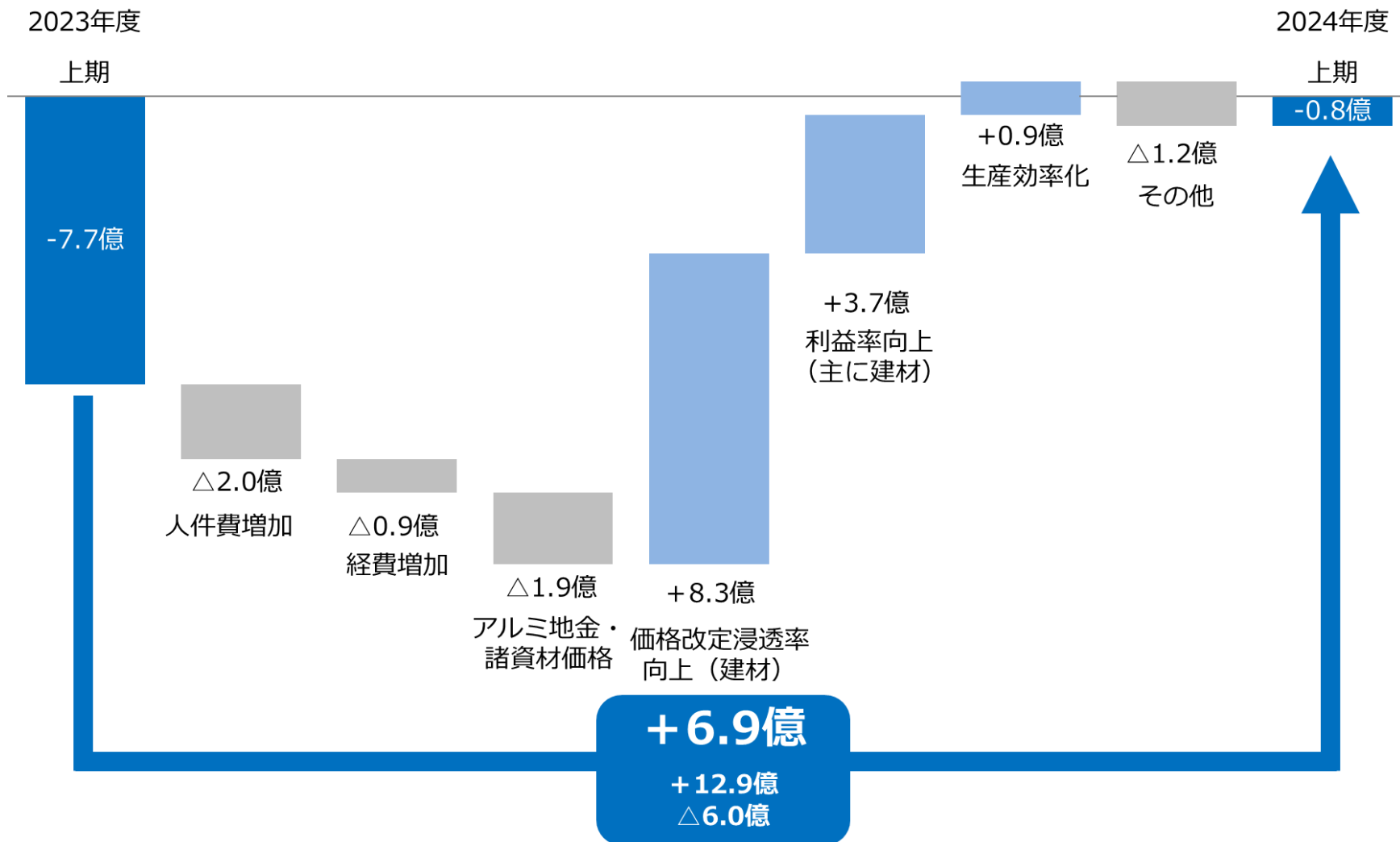
セグメント別 売上高・営業利益

【連結】

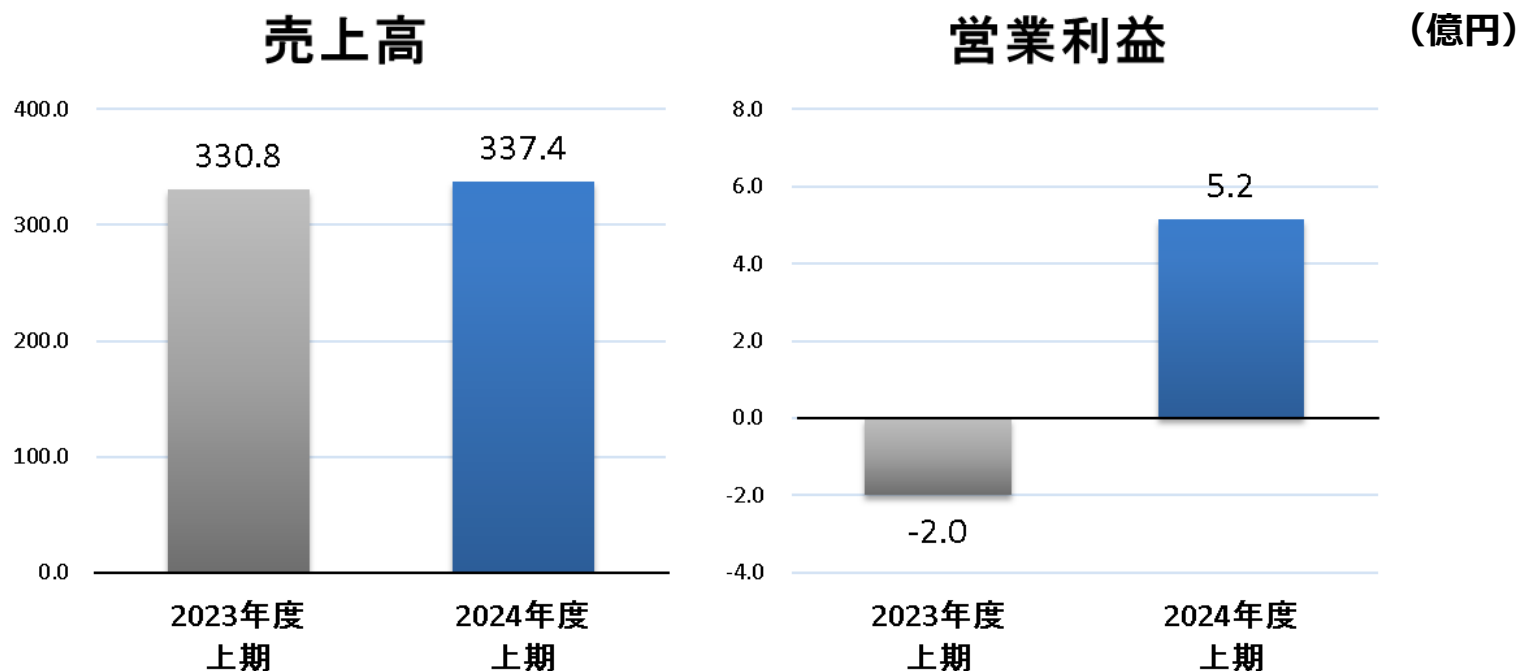
(百万円)

	売上高			営業利益		
	2023年度	2024年度		2023年度	2024年度	
	上期実績	上期実績	対前年比	上期実績	上期実績	対前年比
建 材 事 業	33,082	33,738	102.0% +656	-199	515	- +714
形 材 外 販 事 業	10,308	11,220	108.8% +912	23	70	301.4% +47
環 境 事 業	1,222	1,045	85.5% △ 177	33	-28	- △ 61
物 流 事 業	1,408	1,490	105.8% +81	166	209	125.7% +42
そ の 他 事 業	141	152	107.7% +10	83	97	116.7% +13
(消去又は全社)	-	-	-	(880)	(952)	△ 72
合 計	46,164	47,648	103.2% +1,483	-772	-87	- +684

営業損益増減分析（前年比・要因別）

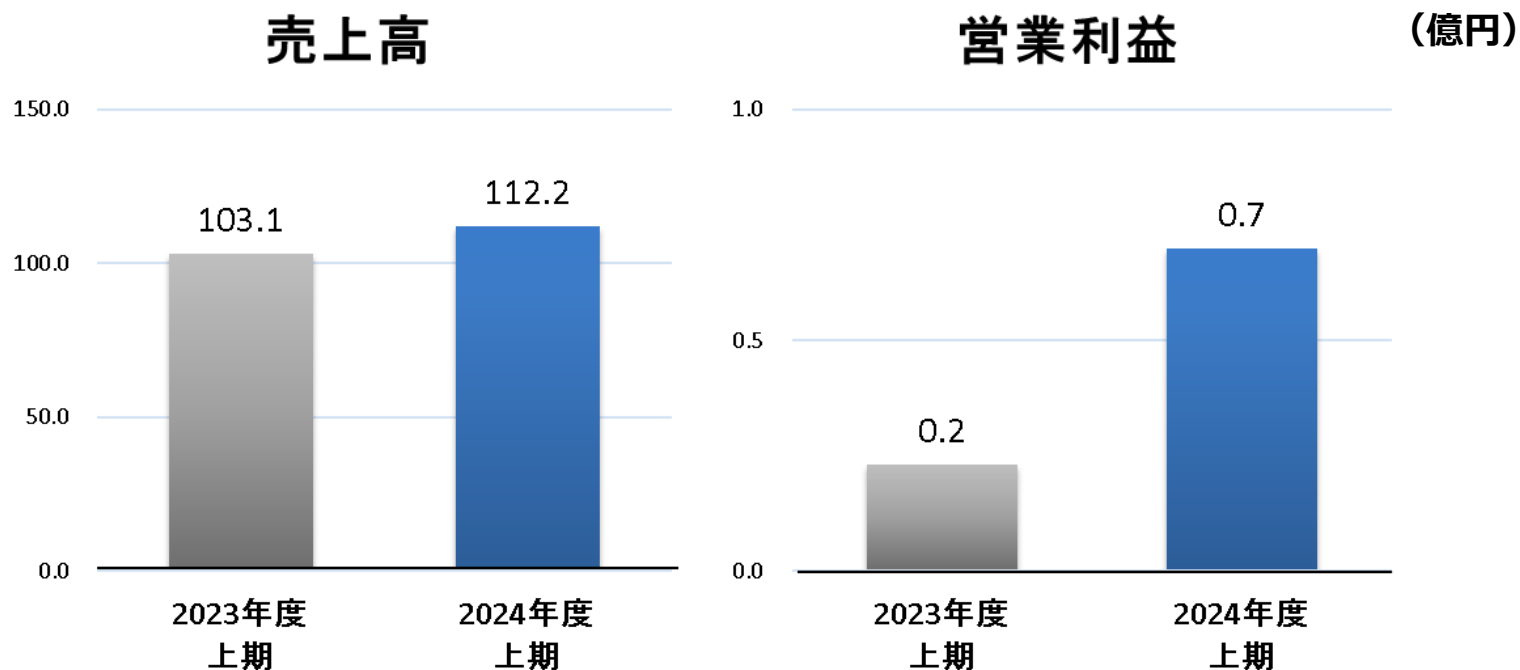


アルミ地金価格の急騰や2024年問題による輸送コストの上昇等マイナスの影響があったが、価格改定の浸透に加え、VE・CD提案により営業利益が大幅に改善した。



■ 売上高・営業利益（増収増益）

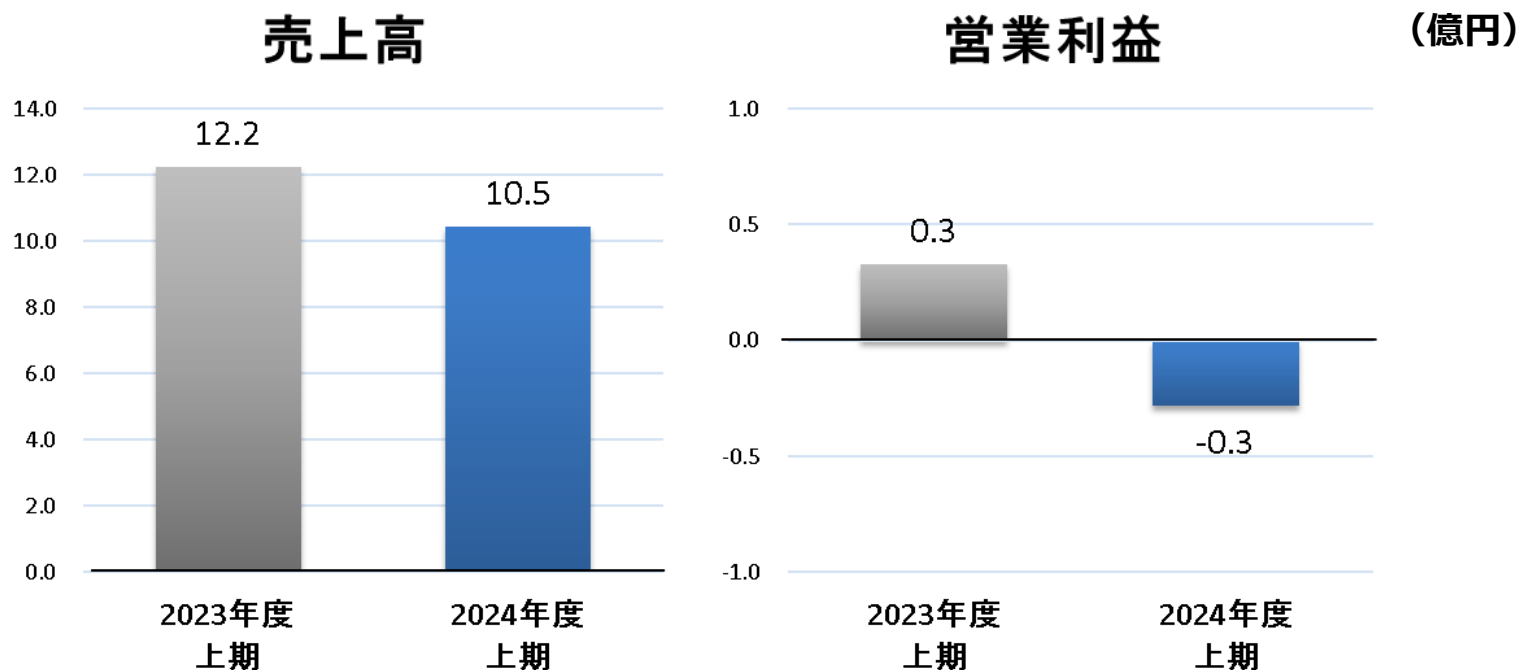
建設資材の高騰や労働力不足等厳しい事業環境は継続しているものの、受注は堅調に推移し、ビル新築事業とリニューアル事業が好調だったため増収。利益面はアルミ地金価格高騰の影響を受けたが、プロセス管理の徹底等の営業強化による利益率の良化に加え、価格改定浸透の影響もあり増益となった。



■ 売上高・営業利益（増収増益）

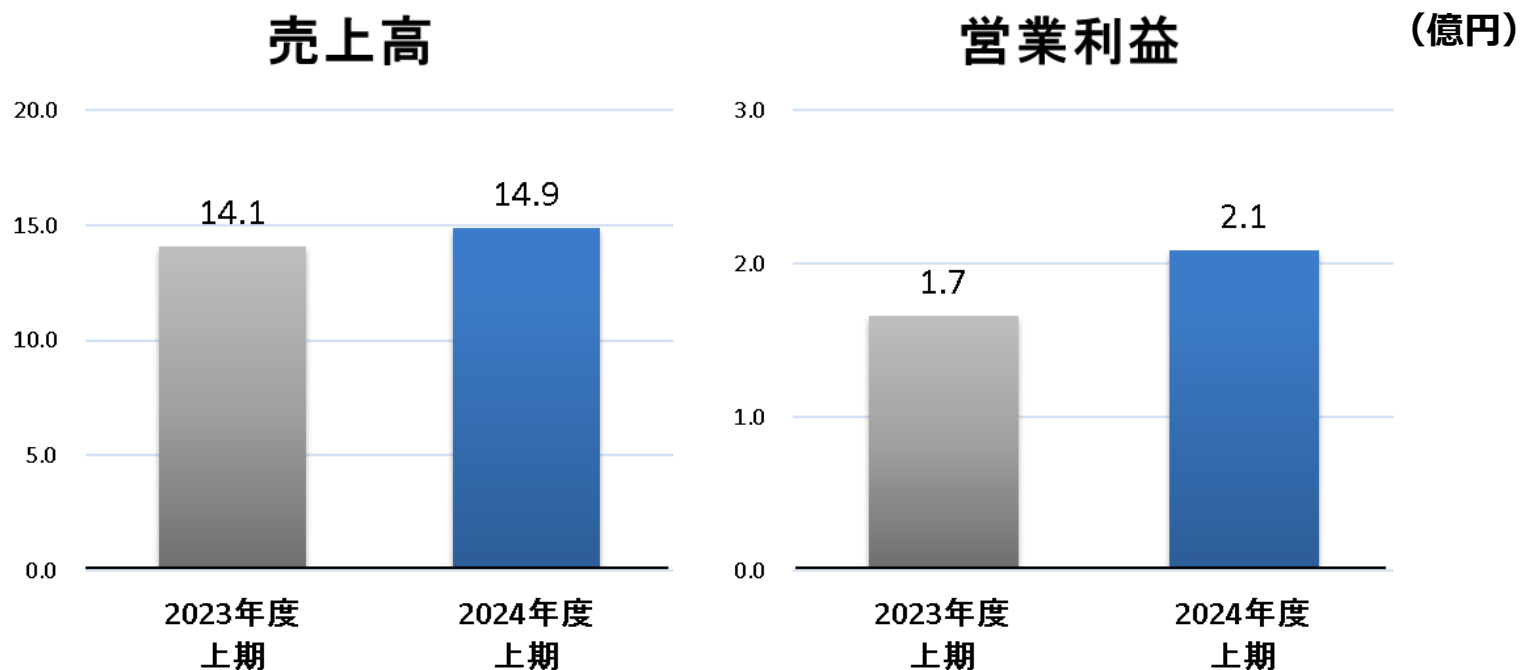
売上はアルミ地金市況に連動した販売単価の上昇に加え、アルミ加工品および精密加工品の好調が牽引し増加。

利益面では、地金価格急騰や台風による稼働停止等による機会損失が影響したものの、内製化による外注費低減等の合理化施策が奏功し、アルミ加工品および精密加工品の利益改善がそれを上回り増益となった。



■ 売上高・営業利益（減収減益）

プラント事業は新規プラント工事の売上が前年を上回ったが、価格高騰分が転嫁しきれず、利益は前年並み。また、メンテナンス工事が猛暑の影響で下期にシフトし、売上・利益共に減少となった。薬剤事業においても、利益率は前年と同水準だが、ごみ処理の効率化による薬剤使用量の減少により、売上・利益共に減少となった。その結果、事業全体としては減収減益となった。



■ 売上高・営業利益（増収増益）

売上は全体的な荷動きが低調だったが、前期に実施した有限会社玉名急配運送店のM&Aにより増加。

利益面では物量低迷、高水準の燃料費、油脂費、諸資材費に加え、備車料の上昇もあり、依然として厳しい事業環境下にあるが、適正運賃の浸透に加え、積載効率や配車効率化の取り組みにより、コスト負担を軽減し増益となった。

連結貸借対照表要旨

(百万円)

	2024年 3月末	2024年 9月末	前期末比
現金及び預金	16,930	14,394	△2,535
売上債権	27,177	23,269	△3,907
たな卸し資産	7,806	8,766	+960
貸倒引当金	△975	△1,066	△90
その他	1,404	1,404	+0
流動資産計	52,342	46,768	△5,573
建物及び構築物	8,019	7,832	△187
土地	13,549	13,554	+4
その他有形固定資産	5,738	5,825	+87
投資有価証券	4,033	4,149	+116
貸倒引当金	△878	△948	△69
その他固定資産	6,603	6,315	△287
固定資産計	37,066	36,729	△336
資産計	89,408	83,498	△5,909

	2024年 3月末	2024年 9月末	前期末比
仕入債務	20,333	13,882	△6,451
短期借入金・社債	14,309	14,971	+661
その他流動負債	7,030	6,088	△942
長期借入金・社債	9,738	11,337	+1,598
その他固定負債	17,040	16,593	△446
負債計	68,454	62,874	△5,580
株主資本	17,964	17,601	△362
その他の包括利益累計額	2,778	2,793	+14
非支配株主持分	210	229	+18
純資産計	20,953	20,624	△329
負債・純資産計	89,408	83,498	△5,909

(百万円)

	2024年3月末	2024年9月末	前期末比
利益剰余金	15,448	15,086	△362
自己資本	20,743	20,395	△348
自己資本比率 (%)	23.2	24.4	+1.2
有利子負債	24,880	27,119	+2,239
1株あたり純資産 (円)	164.39	1,616.30	※ -
ROE (%)	8.7	△0.6	△9.3
EPS (円)	13.58	△8.72	※ -
期末配当 (円)	2.0	20.0	※ -

※2024年10月1日を効力発生日として、株式併合（普通株式10株を1株に併合）を実施しております。

	2023年9月末	2024年9月末	前年同期比
税金等調整前当期純利益	△708	△10	+697
営業活動によるキャッシュ・フロー	857	△3,204	△4,062
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,784	△989	+795
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,279	1,659	△1,619
現金及び現金同等物の期末残高	15,913	13,084	△2,828

受注高・受注残高の推移（ビル建材）

(百万円)

	2021年度上期	2022年度上期	2023年度上期	2024年度上期	前年同期比
受注高	33,158	35,467	32,511	35,886	+3,375
受注残高	63,622	69,035	77,585	78,615	+1,030

設備投資及び減価償却費の推移

(百万円)

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度上期
設備投資額	2,224	1,688	3,765	2,870	1,017
研究開発費	1,505	1,303	1,312	1,309	604
減価償却費	2,293	2,203	1,895	2,020	1,076

従業員の推移

(人)

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度上期
従業員数	3,055	2,970	2,887	2,919	2,941
増 減	△23	△85	△83	+32	+22

Ⅱ. 2024年度の業績予想

2024年度 連結通期業績予想について

【連結】

(百万円)

	2023年度		2024年度			
	実績		予想		前年同期比	
		売上比		売上比	増減額	%
売上高	101,260		101,000		△260	99.7
営業利益	1,773	1.8	2,000	2.0	226	112.8
経常利益	2,186	2.2	2,150	2.1	△36	98.3
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,714	1.7	1,600	1.6	△114	93.3

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正はありません。

Ⅲ. トピックス

『アルビームプラス デザインパンチングパネルシステム』を新発売

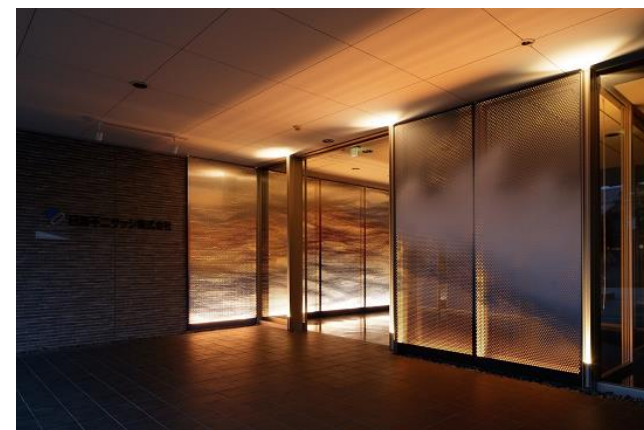
2024年6月5日

日海不二サッシは、画像を取込みアルミパネルに開けるパンチング孔の大きさと配列を自動で割当て、再現させるソフトウェアを独自開発しました。

画像を取込む以外にも自然をテーマとしたデザインや、立体柄、和柄などの標準デザインを用意し、当社のショップフロントサッシや自動ドア「CF-9」にこの商品を組合せることで、オリジナルデザインを実現することができます。

昼間はパンチング孔径による様々なデザインを、夜間にはパネル背面に内蔵したLEDからライトアップすることで、昼夜ともに美しい意匠を実現することができます。

ショップフロントサッシとの組合せ
(昼間と夜間の意匠の変化)



『不二サッシグループ サステナビリティビジョン 2050』を策定

2024年6月26日

当社は、『サステナブルな社会実現への貢献「選ばれる企業グループ」』を目指し、すべての事業活動において環境・社会課題の解決に取り組むとともに、当社グループを取り巻く環境の変化に対応すべくガバナンスの強化を図っています。

不二サッシグループ サステナビリティビジョン 2050

『不二サッシは 窓から夢をひろげていきます』の経営理念のもと、『サステナブルな社会実現への貢献・選ばれる企業グループ』を目指します。



環境〈E〉

2050年カーボンニュートラルと脱炭素社会の実現を目指します
くらしを支える生態系の保全と回復を目指します
資源循環の促進を追求します

社会〈S〉

社会の期待に応える商品・製品づくりを追求します
人権を尊重した公正な事業活動を実践します
地域社会との協働を行います

ガバナンス〈G〉

全てのステークホルダーに対し、適切な情報開示と責任ある対話を行います

こうしたサステナビリティ経営をさらに強化するため、このたび、「経営理念」と環境方針、人権方針やコーポレートガバナンスなどを結び付ける「サステナビリティビジョン2050」を策定いたしました。

SBTi (Science Based Targets initiative) から 「ネットゼロ目標」の認定を取得

2024年6月26日

2050年度までにバリューチェーン全体の温室効果ガス排出量を実質ゼロへ

当社および連結会社の温室効果ガス排出量を2050年までにゼロにする「ネットゼロ目標」において、国際的な気候変動イニシアティブであるSBTiから認定を取得しました。

SBTiネットゼロ目標の認定取得は、日本の建材業界としては2社目となります。
当社グループが掲げる目標は右表のとおりです。



SCIENCE
BASED
TARGETS

DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

脱炭素

基準年：2021年	Scope 1+2	Scope3
2030年度目標	42%削減☑	30%削減
2050年度目標	ネットゼロ達成	

新たに国内および国外の2生産拠点で 太陽光発電を開始

2024年6月26日

再生可能エネルギー導入の推進により脱炭素社会の実現に貢献

当社は、グループの連結会社のうち不二ライトメタルおよび不二サッシフィリピンで自家消費型の太陽光発電を開始しました。

合計の年間発電量は約2,000MWhで、CO2排出量削減に貢献します。



太陽光発電設備（不二ライトメタル上空）
※黄枠：敷地、赤枠：発電設備

再生可能エネルギー導入の推進を通じて、当社サステナビリティ方針「不二サッシグループ サステナビリティビジョン 2050」で掲げる「2050年カーボンニュートラルと脱炭素社会の実現」を目指していきます。

不二サッシ・不二ライトメタルと丸紅(株)・リオティント社との 低炭素アルミビレット調達契約締結のお知らせ

2024年8月6日

当社および不二ライトメタルは、丸紅(株)・リオティント社と共に、ニュージーランド・アルミニウム製錬所 (NZAS) で生産される低炭素アルミブランドRenewAl™のビレット調達契約に合意しました。

RenewAl™は業界初の第三者認証付きの低炭素アルミブランドであり、加えて、リオティントが提供するデジタル技術を活用したトレーサビリティ・プラットフォームSTART™を通じ、本ビレットの原料生産・供給履歴および温室効果ガス排出量等の最大14項目のESG情報について、透明性の高い形でアクセスが可能となります。

今後は、よりサステナブルな低炭素アルミを原材料としたビル用サッシやカーテンウォール等をお客様の御要望に応じ、順次、対応・販売していきます。

学校で初めて瞬時損傷判定技術の実証実験を開始 － 実験には当社のLED光建材が使用されています－

2024年10月15日

当社は、愛知県豊橋市、（国研）防災科学技術研究所、東京大学、名古屋大学、文化シャッター(株)と共同研究に関する契約を締結し、将来の地震に備えて、建物全体の機能を維持することを目的に、豊橋市立磯辺小学校の協力を得て実証実験を開始します。

実験の中で、建物に内蔵したセンサとLEDライトで建物の損傷度合いを光で知らせる『LED光センサアラートシステム』の検証を行っていますが、当社はここで使用されている光センサアラートシステムの設計・製作・施工を担当し、実用化に向けた検証に参画しています。

光センサアラートシステム（校舎）

校舎の外壁の一部にセンサとLEDを内蔵したカーテンウォール部材を施工



窓から夢をひろげていきます
不二サッシ